

# 江戸の旅

浮世絵でめぐる房総

2018年

5月15日 火

▼6月9日 土



図版 歌川広重《山海見立相摸 安房清住山》部分、横大判錦絵揃物のうち、安政5年(1858)、城西国際大学水田美術館蔵

 **城西大学水田美術館**  
MIZUTA MUSEUM OF ART, JOSAI UNIVERSITY

開館時間：午前10時～午後4時  
休館日：日曜日・月曜日  
観覧料：一般 300円、高校生以下無料  
会場：ギャラリー1

Open: 10:00-16:00  
Closed: Sunday, Monday  
Admission fee: Adult 300yen  
※Under 15 and high school students are free  
Place: Gallery 1

# 江戸の旅

浮世絵でめぐる房総



近世の旅と言えば、伊勢参宮を頂点とする寺社参詣を中心に言いますが、西国巡礼や四国巡礼など一部を除くと、寺社までの行程で立ち寄った土地で見られる名勝や旧跡、さらには飲食や買い物といった娯楽までも堪能するような物見遊山の要素を多分に含んだものでもありました。本展では、そういった周遊観光地として人々に親しまれた房総への旅をご案内します。

房総半島は、太平洋と東京湾に接し、風光明媚な景勝地や神社仏閣、名所旧跡に恵まれ、古来より多くの人を魅了してきました。交通網の整備などによって、江戸時代後期に旅行ブームが起こり、遠方まで足を運べない人にとって江戸から近い房総は恰好の観光地となります。名所記や図会といったガイドブックの役割を担っていた版本のほか、房総を旅した歌川広重の作品にも見られるように、房総の名所を題材とした浮世絵も多く刊行されました。

本展では、当時一大観光地となった銚子をはじめ、市川鴻之台や保田海岸などの景勝地、成田山新勝寺や真間弘法寺といった名所旧跡など、様々な房総を描いた浮世絵版画をご紹介します。

新幹線や飛行機で目的地へと簡単に行ける現代の旅とは違い、徒歩や時には船による移動でゆっくりと時間を掛ける江戸時代の旅では、目的地までの道中を楽しむことも旅の醍醐味であったことでしょう。今回ご紹介する浮世絵を通して、江戸の人々が巡った房総を少しでも感じ取っていただければ幸いです。

関連企画 ■ ガラリートーク (学芸員による展示解説) / 6月2日(土)午後2時～ ※予約不要・要観覧料

- 1、五雲亭貞秀《銚子口大漁満祝いの図》大判錦絵三枚続、弘化4年～嘉永5年(1847～52) / 2、小林清親《日本名勝図会 成田山新勝寺》大判錦絵掛物のうち、明治30年(1897)
  - 3、歌川広重《富士三十六景 房州保田ノ海岸》大判錦絵掛物のうち、安政5年(1858) / 4、二代歌川広重《諸国六十八景 十七安房鋸やま》中判錦絵掛物のうち、文久2年(1862)
  - 5、小林清親《武蔵百景之内 下総真間弘法寺》大判錦絵掛物のうち、明治17年(1884) / 6、歌川広重《富士三十六景 鴻之台とね川》大判錦絵掛物のうち、安政5年(1858)
- ※すべて城西国際大学水田美術館蔵

## 交通のご案内 / Access

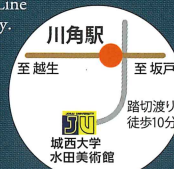


### ■電車の場合

東武東上線 坂戸駅乗換えで東武越生線川角(かわかど)駅下車、踏切を渡り徒歩10分  
By train: From Sakado station of the Tobu-Tojo Line, take the Tobu-Ogose Line and get off Kawakado station. It is a ten minute walk to the university.

### ■お車の場合

1. 関越自動車道鶴ヶ島インター下車、鶴ヶ島方向に進み国道407号線を直進
2. 「脚折四丁目」交差点で右折し、右に狩野動物病院の看板がある交差点で右折
3. 一本松交差点を毛呂山方面に直進
4. 橋(万年橋)を渡り、「明海大学病院」の看板のある交差点を左折し直進、踏切を渡り坂道を上がる(約20分)



城西大学 水田美術館 350-0295 埼玉県坂戸市けやき台1-1  
1-1keyaki-dai, Sakado-shi, Saitama 350-0295 JAPAN  
MIZUTA MUSEUM OF ART, JOSAI UNIVERSITY Phone: 049-271-7327 <http://www.josai.ac.jp/~museum/>